

出張報告書

平成27年10月15日

市議会議長 鳥居 宏次 様

会 派 名 改革クラブ

代表者氏名 井 舎 英 生

平成27年10月8日～9日開催の第77回全国都市問題会議に参加しましたところ、その内容は下記のとおりでした。

記

- | | | |
|---|-------|---|
| 1 | 目的地 | 第77回 全国都市問題会議参加による研修 |
| 2 | 主催者 | ①全国市長会・②長野市
③公益財団法人 後藤・安田記念東京都市研究所
④公益財団法人 日本都市センター |
| 3 | 会 場 | 長野市 ホクト文化ホール |
| 4 | 出張期間 | 平成27年10月7日（水）～10月9日（金） |
| 5 | 出張者氏名 | 井舎英生・鳥居宏次・井上 博 |
| 6 | 内 容 | |

別紙の通り

10月8日(木)9時30分より開催のため前日より長野市内に前泊をして参加する。

会議日程については、別添資料の「会議案内」を参照のこと。

参加者は全国から集まっており、主催者の話では約2,400名とのことであったが、メイン会場に入れずサブ会場において映像中継にて見ている方も数多く居られた。

会場内はホスト主催者である長野市の職員が多数配置され、観光都市長野市を積極的にアピールしていたのには長野市長の気配りが感じられた。

主報告1の加藤長野市長の講演は、

本人が民間企業の代表を務めていた関係から、事業のスピード化を強く訴えていた。

- ① 高齢者の位置づけを75歳以上としそれに対応すべく、公立医療機関の独立行政法人化を進め、最適な医療機関の提供と健康長寿を積極的に推進したいとのことであった。
- ② 少子化対策として「こども未来部」を創設し、0～18歳までを対象とした政策を進めるとのこと、特に幼児期(0～6歳)のこどもについては「三つ子の魂百まで」の諺を思い、生まれ育った長野市への愛着と定着化を進め、結婚セミナーやボランティアによる婚活支援事業を積極的に行うなど、結婚から妊娠・出産・育児までの対応を行うとのことであった。
- ③ 観光政策では、新幹線効果を利用して交流人口の増大を図るべく、従来からの善光寺の門前町長野市のイメージだけでなく、来年のNHK大河ドラマ「真田丸」を売りだし、松代への誘客を願っている。
- ④ 冬季オリンピックの舞台となったことからウインタースポーツの発展と東京オリンピックの開催を契機としたスポーツを通じた地域づくりや交流を促進し、長野を訪れるスポーツの交流人口の拡大を願っている。
- ⑤ 最後に農林業のさらなる発展を促進し果樹・野菜だけでなくワインや食肉及びジビエ料理をも取り組んだ地域振興を検討している。

一般報告1の清水立教大学観光学部講師による講演は、

自身が長野県出身ということと国鉄に勤務し最終はJTBの役員として培った経験を基にした講演であった。

- ① 観光地づくりはダメ、これからは観光地域づくりが必要。
地域全体に持続的な経済効果が必要、地域住民の誇りを熟成しさまざまな効果をもたらさない観光行政はダメ。
観光客から落ちる消費金額は滞在時間に比例する。
地域に滞在させて住民との交流をさせなければ効果が出ない。
九州の由布院では観光客のデーター化を進めている。宿泊数や滞在時間・周遊などの立ち寄りカ所数・消費金額の多寡・リピート意向等をアンケートによるデーター化により常に分析している。
アンケートは商店街や土産物屋・旅館の従業員が観光所の作成したフォ

ーマートに記入しているとのこと。

- ② めばしい観光の名所や旧跡がなくても、四国徳島の三好市の祖谷は蔓橋で有名であるが、むしろ日本の原風景として外国人観光客が年間8千人訪れている。これなどはまさしく地域の醸し出す雰囲気を買りにしているものであり、地元はそのようなことを考えたこともなかったが、外国人観光客の口コミとネットのおかげで観光ブームになりつつある。

問題はその観光地域の醸し出す雰囲気を地域住民が大切にすることであり、取り立てて何かをするということではなく自然体で地域の文化をそのまま見せるだけのことである。

- ③ 文化のわかる観光客をつかめばリピーターになるし、雰囲気をつぶすこともしないし、口コミやネットによる宣伝まで観光客自身が行ってくれる。
- ④ 安売りはしないことである。
- ⑤ 住みたくなる観光地が理想、住んで良しの町は高齢者にも便利な街であるはず。観光の為に町を住みやすくするのも一つの方向性である。小平市がそのようにしている。

一般報告2の太田豊田市長の講演は

豊田市の現状を訴えるものであった。

- ① 平成の合併で近隣町村を合併した豊田市は、工業の町豊田市だけでなく農林業もあり、高齢化にも苦慮し、地域住民のコミュニティーづくりにも励んでいるとの内容であった。

一般報告3のセラー・マリ・カミングス氏による講演は、

本人が長野オリンピックの際にボランティアとして来日し、その後日本に住み着き日本文化や地域住民との交流を中心にした里山保全活用を行っている報告であった。

パネルディスカッション報告の一橋大学教授の辻氏の講演は、

殆どパワーポイントを使用した講演であり、内容は全国を対象にした一般的な人口減少問題と地域活性化を各部門別に行うのではなく連携を中心とした活性化戦略の話であった。

パネルディスカッション報告の両備グループ代表者の小嶋氏の講演は

共感することが多く、私自身の考えと危惧を報告されていた。

小嶋氏の報告内容については、考えが全く私の考えと一緒に、あえて私のコメントを排除し、テキストに記載されていた小嶋氏の報告書を添付する。

特に2、「キーワードは「日本の経営」と「地方の経営」」の7つのキーワードを参照されたい。

別紙「日本再生と地方創生の7つの処方箋」

小嶋光信氏報告

パネルディスカッション報告の地域プランナー久繁氏による講演は

テキスト資料を読んでいて「目から鱗が落ちた」ように感銘を受けた。

政府が推奨するコンパクトシティの考えに一石を投じるものであった。

出生率の高低は地方が高く、大都市ほど低い共感できる。我々は政府（国土交通省や内閣府）の推奨する施策であるコンパクトシティに対し、特に異論を覚えなかったが、都会における生活実態と地方における生活実態では消費金額をはじめ生活全般に大きな差があることは十分承知しているつもりであった。

現実には夫婦の所得が600万円とすれば、都市では賃貸住宅住まいでありまた保育所などへの費用が嵩み、余裕のある生活は難しいはずである。翻って夫婦が生まれ育った地方での生活ならば、一戸建て住宅で、保育所も夫婦の御両親が見てくれるため必要ない。そして御両親との同居であれば住宅費も必要ない状態となり、かなりの費用を節約することができ、その分自身の生活や教育に費やす事が出来る。

御両親と同居若しくはスーパの冷めない距離での住居ならば、生まれ育った地域での活動もでき、また御両親の介護や高齢化による危惧などもなくなるはずである。

夫婦も地方での生活ならば安心して子育てができ、出生率が高くなるのも必然と思われる。

政府の提唱するコンパクトシティには地方行政の逼迫した状況を基にし、少子化が進む現在の世相を反映したものではあるが、ある意味で東京から眺めた計画であり、地方創生を謳った施策とは相反するものではないかと思うようになった。

本市における現状から検討すれば、本市は大都市周辺地域にあり、上記論法からいえば大都市になる要素が強いが、本市の特異性（地域性）から見ると大都市に近い地方都市ともいえる。

本市の新たな施策を考える上において、コンパクトシティ論を採用するか、反コンパクトシティ論で行くかは、本市の現状を分析し、検討しながら良いとこどりの施策展開が必要と考える。

パネルディスカッション報告の信州大学教授橋本氏による講演は

スポーツクラブを通じた街おこしをメインにしたものであり、例えばサッカーのJリーグを通じた地域活性化策であった。

パネルディスカッション報告の太田真庭市長による講演は

私自身現職の際に環境・エネルギー問題で真庭市のことを調べていたため、最近市長になった太田氏の講演内容は？であった。

真庭市が有名になったのは地場企業である銘建工業（木材加工業としてバイオマス発電などのエネルギー問題や里山保全・集成材を中心とした新建材の開発などで有名）の功績が大きく、講演内容については今更の感が強かった。

パネルディスカッション報告の管今治市長の講演は

瀬戸内海に散らばる多くの島が四国の今治市と合併したことによる、観光による活性化策を謳ったものであり本州四国連絡橋の一つ「しまなみ街道」を利用したサイクリング街道としての観光化と瀬戸内に点在する島の活性化を目指すものであった。

また合併による求心力を高めるためにF C 今治のJリーグ昇格を目指した施策は先にレポートした一般報告7の信州大学教授橋本氏による講演を実践しているものであった。

所見

記載した報告以外に、テキストには研究事例として20件の報告があったが、その研究事例による講演は特になく読みおくだけとした。

今回の9件の報告事例において、特に感銘を受けたのはパネルディスカッション報告での両備グループ代表者の小嶋氏の報告と地域プランナー久繁氏による講演であった。

国の施策に対する現状把握と地方都市独自の施策の在り方について考えさせられる内容であった。

我々はともすれば国の打ち出す施策に目がいき、その本質や立ち位置を考えることは少ないが、批判的ではなく自己の考えと地域の現状をしっかりと把握することにより、国の施策に対し追ぞいするのではなく、地域においての実効性や効果を深く考えることが必要であるということを教えられた。